

# 地方議会評価モデル

## 「これから取り組むべき課題」(議会プロフィール5)

2023年4月26日

飯田市議会  
記者会見資料

は、主に市民に身近な取り組むべき改革課題

対象とした項目	これから取り組むべき課題「議会プロフィール5」(具体的な取り組み事項の例示含む)	議会プロフィールから得られた課題	成熟度評価から得られた課題
①理想的な姿の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全議員で決定したスローガン、ミッション、ビジョンの市民と議会全体への反映</li> <li>●議会の「理想的な姿」を実現していくための継続的に取り組んでいく仕組みづくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会改革推進会議のあり方検討</li> <li>・継続的な取り組みのための条例制定の検討(議会基本条例の必要性の検討)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「機関としての議会」という視点においては、第26条「政策の調査、審議のための機関」とは別モノと考える。「機関としての議会」とは具体的にどのようなモノか明確にしていく必要があるのではないか(第22条の内容で良いか)</li> <li>・議長諮問による議会の在り方等の研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、理想的な姿、構想を実現していくための、更なる政策課題の明確化、課題解決の具現化が必要となる。そのため、継続して取り組んでいく仕組みが必要であり、スタートラインに立っている。</li> <li>・運営ビジョン作成から10年が経過し、当時の議員も少なくなり、ここ数年は運営ビジョンの内容を議会全体で確認できていなかった。</li> <li>・今回、議会プロフィール作成にあたり再確認し、議会全体のものとする必要がある。</li> <li>・実現に向けた具体的な進行計画策定と継続的な取組となる仕組みの構築に向け、必要があるならば、飯田市議会独自の条例制定も視野に制度化を目指す。</li> </ul>
②課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収集された情報を様々な観点から分析し、政策提言・政策立案や議会改革のテーマへとつなげていくためのプロセスや仕組みの構築、あるいは既存の仕組みの改善               <ul style="list-style-type: none"> <li>・常任委員会の強化</li> <li>・所管事務調査のあり方の協議</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市自治基本条例を市民と共に見つめていく。</li> <li>・地域共通課題への積極的取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集された情報を、政策提言・政策立案や議会改革のテーマへとつなげていくためのプロセスや仕組みの構築、あるいは既存の仕組みの改善</li> <li>・様々な観点からの分析により、政策提言・政策立案、並びに議会改革のテーマ・課題として明確化する仕組みづくり</li> <li>・平成30年までは各常任委員会でも検討項目について確認してきたが、その後の取組が議会全体で確認してなかった。課題の継続的な見直しが行われていない。</li> </ul>

# 地方議会評価モデル

## 「これから取り組むべき課題」(議会プロフィール5)

2023年4月26日  
飯田市議会  
記者会見資料

対象とした項目	これから取り組むべき課題「議会プロフィール5」(具体的な取り組み事項の例示含む)	議会プロフィールから得られた課題	成熟度評価から得られた課題
③課題解決の具現化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●飯田市議会の「理想的な姿」を実現するため、体系的かつ具体的な目標や、目標達成のための継続性を持った計画づくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロフィール6の優先順位の明確化</li> <li>・常任委員会の所管事務調査ガイドラインの検討</li> </ul> </li> <li>●飯田市自治基本条例「第6章市議会の役割」の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治基本条例を補完する取組</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追認機関と言われないよう、政策立案により二元代表制としての役割を果たす。</li> <li>・「評価モデル」から抽出された課題や活動目標を実現し、これを担保するものが、自治基本条例の「議会」の項目では不足する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「議会プロフィール」を作成する中でまとまった飯田市議会の「理想的な姿」を実現するための、体系的かつ具体的な目標や目標達成のための計画づくり</li> <li>・(議会改革について)運営ビジョンの進捗状況を全体で再確認する。</li> </ul>
④住民との対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>●議会報告・意見交換会の在り方を見つめ直すとともに、政策サイクルにおけるタウンミーティングの実施と定着</li> <li>●市民との対話、市民からの考えを聞くことについての学び直し               <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員の質問力、傾聴力の向上</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け継がれた風土を具体的に実行していく不断の取り組み</li> <li>・参加者の属性に偏りがあり、広く市民の声を聴けていない。 ⇒ コロナ禍で(補完目的の)タウンミーティングの未実施</li> <li>・令和2年度全員協議会にて確認した「広聴に関する検討報告書」を受けての新たな事業展開</li> <li>・政策サイクルにおけるタウンミーティングの実施と定着</li> <li>・幅広い層との対話(タウンミーティングの実施と定着)</li> <li>・市民との政策討論会(総合計画に市民の声を反映)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の議会活動の中に、市民との対話の機会や市民の意見をどう取り入れるか。</li> <li>・議会報告・意見交換会の在り方は従来のままで良いのか、まだほかに方法がないのかを考えることから始める。理想とする姿は何か、その手法は何かを学ぶことも見つめ直す。</li> </ul>

# 地方議会評価モデル 「これから取り組むべき課題」(議会プロフィール5)

2023年4月26日

飯田市議会  
記者会見資料

対象とした項目	これから取り組むべき課題「議会プロフィール5」(具体的な取り組み事項の例示含む)	議会プロフィールから得られた課題	成熟度評価から得られた課題
⑤議員間の討議	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現制度である議案に対する議員間討議の周知と、改善点の洗い出し</li> <li>●議員間討議を行うための論点を明確にする仕組み               <ul style="list-style-type: none"> <li>・論点抽出表の活用</li> <li>・論点整理のスキルアップ</li> <li>・議論のトレーニング</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由討議について積極的に行うべきであるが、議論を深めるための課題認識、課題共有が出来ているか。</li> <li>・市民からの意見要望について議員間討議ができていない。</li> <li>・会派では議員間自由討議が日常的にされているが、委員会での議員間討議は実例がまだ少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な運用を行うため、委員長会での周知、研究</li> <li>・議員間討議を行うための、論点を明確にする仕組みづくり</li> <li>・現制度である議案に対する議員間討議の仕組みと、行政評価などを行う際に実施している議員間討議の違いを整理し、改善点を明らかにすること</li> </ul>
⑥政策立案・提言、議案審査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●政策サイクルを回し、バージョンアップするための課題整理と対策</li> <li>●議案審査などにおいて、会派や委員会で論点整理する仕組みづくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・会派や委員会を超えた「議会として」の意志表示</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・請願・陳情の積極的な活用を推進するとされているがなかなか進んでいないため、活用しやすいよう手順等の確認が必要。</li> <li>・政策サイクルバージョンアップのための委員会代表質問などの検討</li> <li>・常任委員会活動の質的向上が継続的に図られているか</li> <li>・財政分野などへ幅広く活用を実施</li> <li>・議案審査において、会派とさらには委員会で論点整理する仕組み</li> <li>・政策サイクルを回すための課題整理と対策</li> <li>・予算、決算審査にあたっての着眼点の整理と共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論点抽出票の活用と論点整理のスキルアップ 執行機関とは異なる議会ならではの視点を吸い上げる仕組みの構築</li> <li>・政策立案と提言は、持ち寄って審議する仕組みと場が必要。</li> <li>・一般質問、代表質問を会派間で共有し、重要課題については議会全体で取り組む体制づくりが必要。</li> </ul>

# 地方議会評価モデル 「これから取り組むべき課題」(議会プロフィール5)

2023年4月26日  
飯田市議会  
記者会見資料

対象とした項目	これから取り組むべき課題「議会プロフィール5」(具体的な取り組み事項の例示含む)	議会プロフィールから得られた課題	成熟度評価から得られた課題
⑦総合計画、政策評価、予算・決算の連動	<p>●予算提言を行うための予算決算委員会の機能向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算提案を伴った政策提言の実現</li> <li>・ 政策サイクルの継続性の担保</li> </ul> <p>●提言後のふり返りと検証を十分に行うことができる仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政策提言・議会報告・意見交換会等からの申し送り事項の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 限られた財源の中で、いかに住民の意見やニーズを政策サイクルにのせていくか。</li> <li>・ 予算決算委員会準備会がまだ機能を果たし切れていない。</li> <li>・ 予算決算委員会準備会の充実(全議員の共有化を図るとともに、論点を明確化する作業への工夫と、政策提言を前提とした審査の実行)</li> <li>・ 政策サイクルに組み込まれた行政評価を実施中であり、決算審査・予算審議へ連動させている。</li> <li>・ 行政評価からの政策提言、予算提言につなげていくための過程(時間的な制約や各委員会との均衡)</li> <li>・ 行政評価及び決算審査を予算提言にいかに関与させることができるか</li> <li>・ 予算提言に至らない場合が多く、決算審査を予算審査に生かすという「議会の政策サイクル」が機能しているとは言い難い。</li> <li>・ 提言後の振り返り、検証が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算決算委員会の機能向上</li> <li>・ 予算決算委員会準備会での議論がまだ不十分で、当初考えていた機能が発揮できていない。</li> <li>・ また行政評価から見えてきた課題について、予算の増額・減額などの裏付けとなる調査研究が不十分。</li> <li>・ 政策提言、予算提言が次年度の予算に反映され、確かに実施されているかを、年度を跨いで確認する仕組みの構築</li> <li>・ 「言いつばなし、やりっ放し」にしないという意識づけと仕組みづくり</li> </ul>
⑧能力向上	<p>●議会の理想的な姿の実現に向けた、「議会人」としての必要な能力の明確化と計画的な能力伸長のための仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的な研修プログラムの検討と実施</li> <li>・ 一般質問、専門的知見の活用、論点整理、一般質問などの質的向上</li> </ul> <p>●「チーム飯田市議会」として事務局職員の能力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議員力と議会としての質問力アップのための「たかが一般質問、されど一般質問」をどう生かすか。</li> <li>・ 質問力、論点抽出力など議員個々の資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議員だけの能力向上ではなく、「チーム飯田市議会」として事務局職員の能力向上も必要である。</li> <li>・ 事務局の体制への課題と、政策に必要な情報の提供など十分な機能を果たしているとは言い難い。</li> <li>・ ビジョン実現に向かい、議員及び事務局は理想的な姿を設定し、個々にどのような能力を求められるか必要なスキルの明確化や計画的に継続する仕組みづくり</li> <li>・ 議会としての仕組みや制度、地方自治法など実務的な研修の機会を増やす必要がある。</li> <li>・ 政策を議会で共有するための「政策研究能力」が必要。</li> </ul>

地方議会評価モデル  
「これから取り組むべき課題」(議会プロフィール5)

2023年4月26日  
飯田市議会  
記者会見資料

対象とした項目	これから取り組むべき課題「議会プロフィール5」(具体的な取り組み事項の例示含む)	議会プロフィールから得られた課題	成熟度評価から得られた課題
⑨体制づくりと活動基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●体制や運営の制度面における課題の洗い出しと改善</li> <li>●飯田市議会の各種制度や活動の目的及び趣旨の全議員における共有化</li> <li>●事務局体制の充実、強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局体制の強化(人員・スキル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全議員で共有して取り組むためにも、改めて体制や運営の制度面における課題の洗い出しと飯田市議会の各種制度や活動の目的及び趣旨を全議員で共有する。</li> <li>・検討委員会等の体制づくり、運営方針の見直しが必要。</li> <li>・事務局職員の負担が大きくなっており、増員も含め事務局体制の拡充が必要。</li> </ul>
⑩内部資源と外部連携の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所管事務調査などにおける専門的知見の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会アドバイザーの設置検討</li> <li>・専門的知見を活用した所管事務調査の実施</li> <li>・監査委員との連動</li> </ul> </li> <li>●ICTの更なる活用の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン会議の課題の把握と対応策の検討</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレス化には貢献しているが、議員の調査研究を深めるための汎用性の向上について指摘があった。</li> <li>・外部連携から得られる知見の獲得は議会にとって有効との認識を議会の共通認識し、外部資源の活用を調査研究や情報収集等のための仕組みの一つとしての位置づけ</li> <li>・分野別に外部知見から協力が得られる関係を構築していくことまではできていない。</li> <li>・議会内の人的資源の活用</li> <li>・ハード的な問題(データ容量)など課題がある。</li> </ul>
⑪法令等遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法令やコンプライアンスを遵守する重要性と公人としての高い倫理観を全議員が認識するための計画的、かつ継続的な研修のあり方を研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な研修会の実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治倫理をテーマとした議員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に見て議員の行動に疑問を持つことも増えてきた、時代に合わせた対応も必要である。</li> <li>・飯田市自治基本条例第25条、「市議会議員の責務や飯田市議会議員の政治倫理に関する内規」など、法令やコンプライアンスを遵守する重要性と公人としての高い倫理観を全議員が認識するための計画的、かつ継続的な研修のあり方の研究</li> </ul>

# 地方議会評価モデル 「これから取り組むべき課題」(議会プロフィール5)

2023年4月26日  
飯田市議会  
記者会見資料

対象とした項目	これから取り組むべき課題「議会プロフィール5」(具体的な取り組み事項の例示含む)	議会プロフィールから得られた課題	成熟度評価から得られた課題
⑫情報公開と説明責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>●議会活動の広報が不十分、かつ広報のツール不足               <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会協議会のYouTube配信の検討</li> <li>・WEBやSNSなど、情報発信媒体を含めた広報のあり方検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページでの公開でどの程度周知されているのか。</li> <li>・情報発信することで市民の関心を高め、意見をもらうサイクルの検討</li> <li>・議会活動の広報が不十分、かつ広報のツールが不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会派別や議員別の賛否態度の公開についての議論が必要。</li> <li>・双方向の取り組みにはなっておらず、何をすれば住民との双方向となるのか。デジタル化も含めた課題検討が必要になってくる。</li> </ul>
⑬危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●議会BCPの磨き上げ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・本会議のオンライン開催の検討</li> </ul> </li> <li>●有事の際、地域の復旧・復興に関する政策提言機能の発揮に関する検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練量が足りていない。</li> <li>・議会BCPは作成したばかりで、議会全体の認識とする必要がある。</li> <li>・議会としての防災活動、防災体制、有事の際の救援から復興までのしくみづくりを今後進めていく必要がある。</li> <li>・「危機」は捉える範囲が広い。議会の機能を維持するためなにをどこまで決めるのかは検討の余地がある。</li> </ul>
⑭主権者教育と選挙の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主権者教育と主権者意識の醸成に対する基本的な考え方の整理と具体策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会が行う主権者教育の明確化とカリキュラムづくり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自治の文化」(江藤教授談)を市民にも受け止めてほしい。</li> <li>・投票率向上(市政への無関心、若年層へのアプローチ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主権者教育と主権者意識の醸成を議会としてどう考えるか。</li> </ul>
⑮ふり返りの取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●取組みのサイクルの中に「ふり返し」を位置づけ、次のアクションに繋げていく仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会改革の自己検証(議会運営上のベースとなる仕組み・ルール)の検討が不十分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返りの結果の公表は行われていないし、どこまで公表する必要があるかは議論の余地がある。</li> <li>・それぞれのサイクルの中に「振り返り」を位置づけ、次のアクションに繋げていくことが重要。</li> </ul>
⑯ふり返りの結果活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次の任期においても、継続して取り組むことができる制度               <ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送り一覧表の全議員共有</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会評価モデルにしっかりと取り組むことが大事であり、スタートラインに立ったところであり、ビジョンやミッションを達成するためには「こういった課題がある」として、課題のバージョンアップが必要。</li> <li>・議会全体の振り返りと活用</li> </ul>